# オホーツク海宗谷暖流情報

（R4(2022)年8月下旬）

R2(2022)年8月31日
中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 宮園・有馬）

● 8月下旬現在，宗谷暖流の勢力は例年並み～やや強めです（図1）。
●オホーツク海沖合の表面水温は，約1カ月にわたってAt消滅の目安となる15℃を超えており（図2），Atはほぼ消滅したものと推測されることから，麻痺性毒性値は今後緩やかに低下するものと考えられます。
●宗谷暖流情報は今回で終了します。

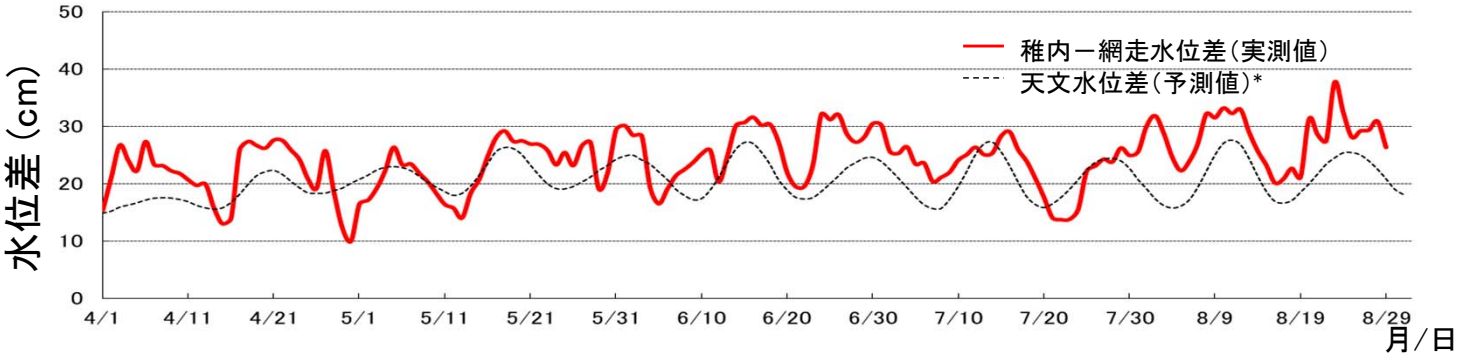


図1　R4(2022)年4/1-8/29の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*水位差の予測値は，潮汐表として公開されている天文水位差から算出することができます。
（実測値は気圧と風の影響を受けて変動します）

**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

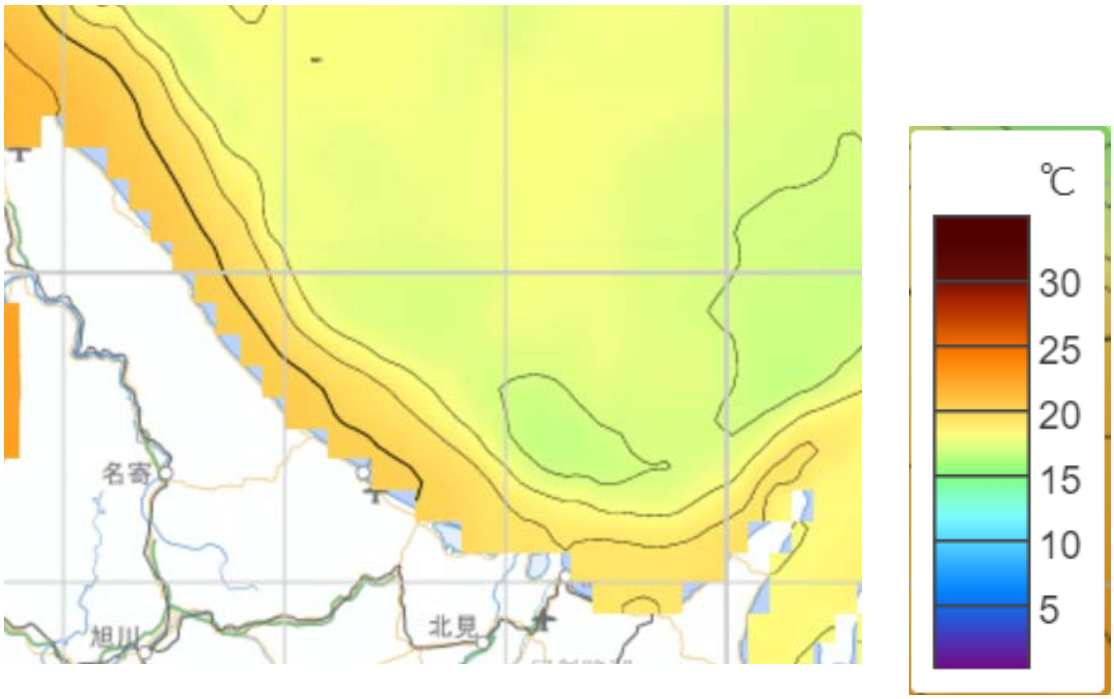


図2　R4(2022)年8/29 オホーツク海沖合の表面水温の分布

気象庁 海面水温実況図
http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaikyou/kaikyou/tile/jp/index_sstanl.html#zoom:7/lat:43.783786/lon:142.648682/mapheight:600/colordepth:deep/element:sst

# オホーツク海宗谷暖流情報

（R4(2022)年8月上旬）

R4(2022)年8月5日

中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 宮園・有馬）

●7月25-27日にオホーツク海で行った麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ・スピーシーズ・コンプレックス（旧アレキサンドリウム・タマレンセ），略称「At」）の広域分布調査の結果を速報します。
●Atは，26定点中21定点で出現（最高660細胞/L)しています(図1)。最高密度が，毒化の目安となる100細胞/Lを超えており，注意が必要です。
●8月上旬現在，宗谷暖流の勢力は例年並み～強めですが(図2)，勢力が弱まれば，Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入する可能性があります。今しばらく麻痺性毒性値の推移にご注意ください。
●宗谷暖流の勢力については，今後も「オホーツク海宗谷暖流情報」として適宜発信予定です。

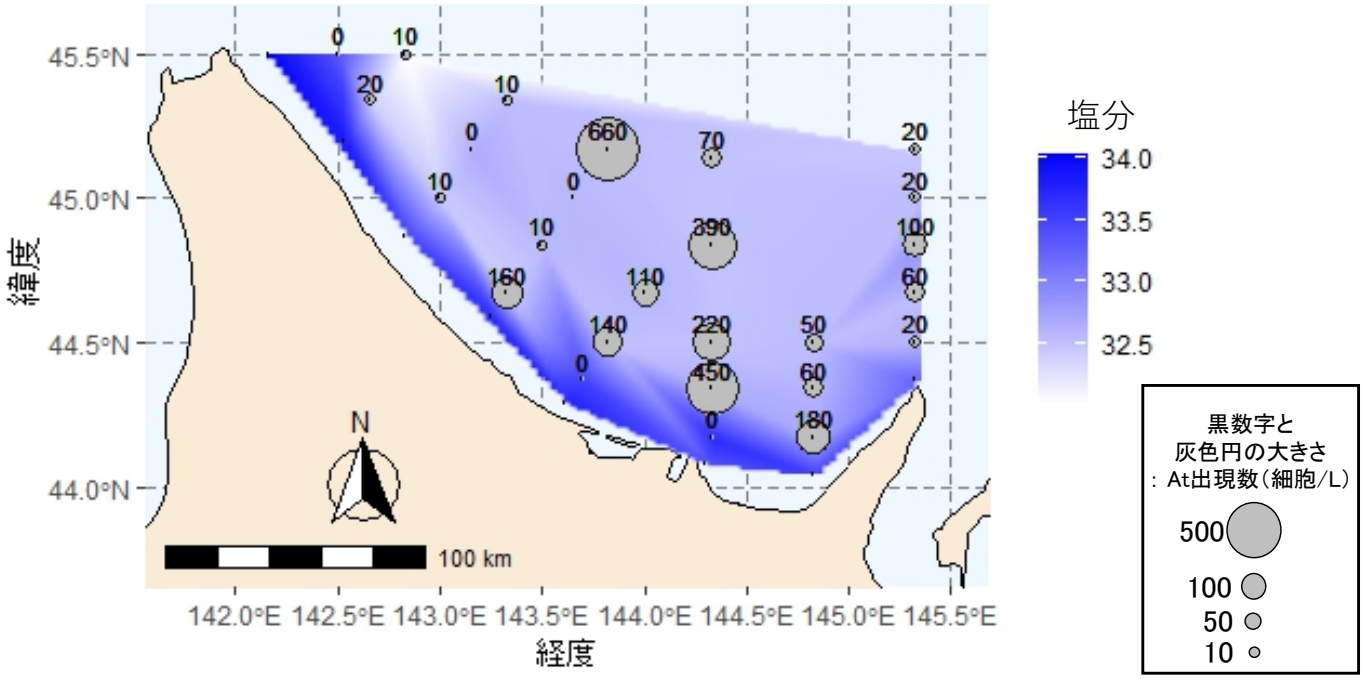


図1　R4(2022)年7/25-27表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試所属試験調査船北洋丸による調査結果

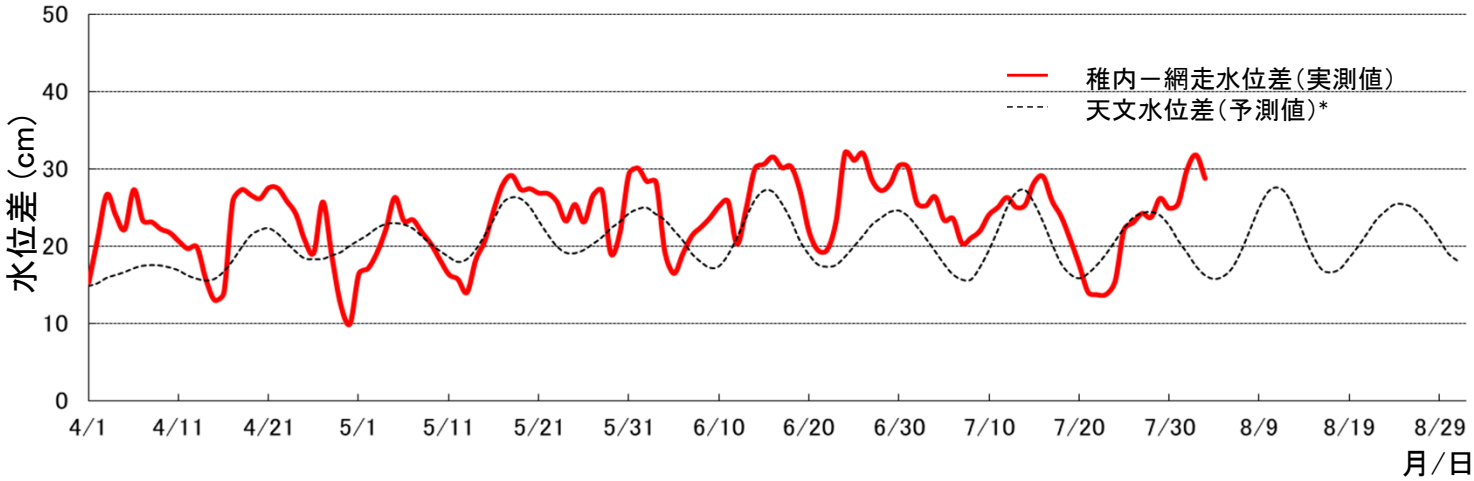


図2　R4(2022)年4/1-8/3の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*水位差の予測値は，潮汐表として公開されている天文水位差から算出することができます。
（実測値は気圧と風の影響を受けて変動します）

**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，
この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

# オホーツク海宗谷暖流情報

（R4(2022)年7月中旬）

R4(2022)年7月21日
中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 宮園・有馬）

●7月中旬現在，宗谷暖流の勢力は例年並み～強めですが（図1），今後北寄りの風が続くと宗谷暖流は弱化する可能性があります。本年の6月上旬の広域分布調査では麻痺性貝毒プランクトンAtが沖合にわずかに確認され（図2），沿岸定点でも7月上旬にはわずかに検出されていますので，麻痺性毒性値の推移にはご注意ください。 ●宗谷暖流の勢力については，適宜「オホーツク海宗谷暖流情報」として発信予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています（8月上旬発信予定）。

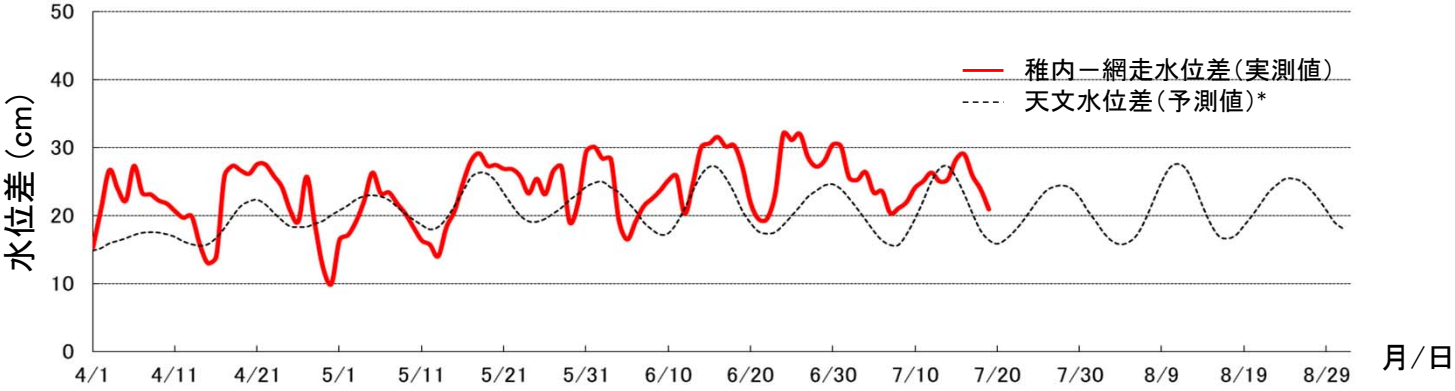


図1　R4(2022)年4/1-7/19の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*水位差の予測値は，潮汐表として公開されている天文水位差から算出することができます。
（実測値は気圧と風の影響を受けて変動します）

**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，
この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

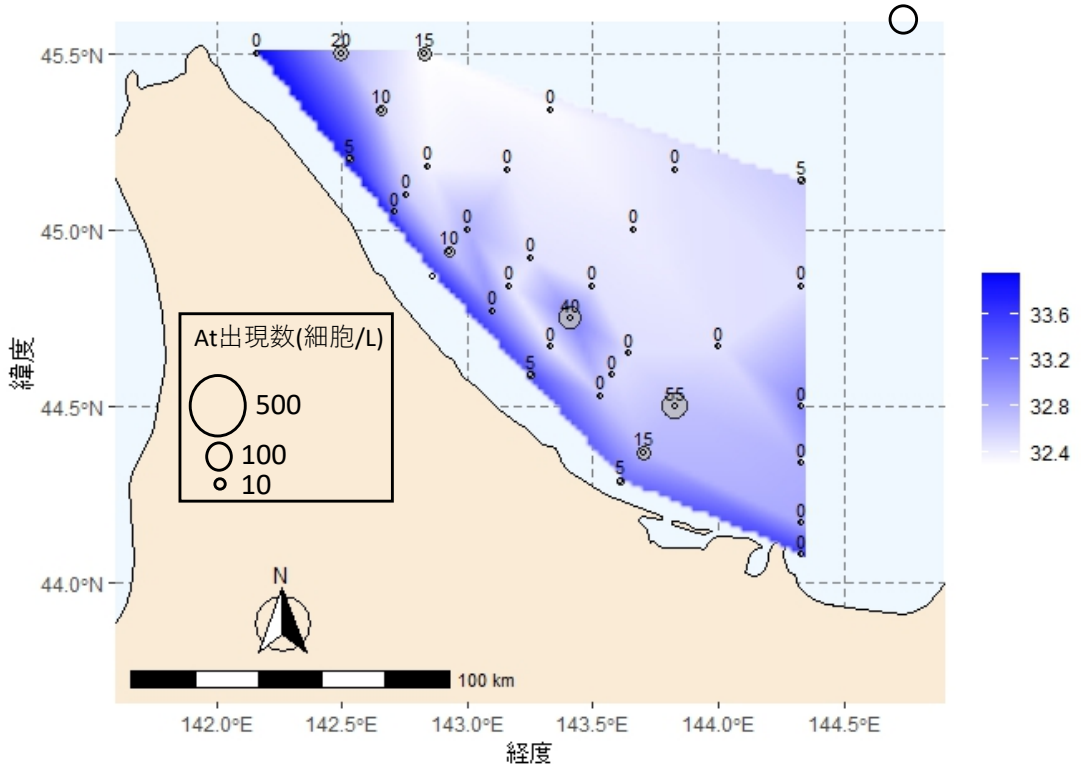


図2　R4(2022)年6/6-8の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試所属試験調査船北洋丸による調査結果

# オホーツク海宗谷暖流情報

（R4(2022)年7月上旬）

R4(2022)年7月11日

中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 宮園・有馬）

●7月上旬現在，宗谷暖流の勢力は例年並み～強めですが（図1），今後北寄りの風が続くと宗谷暖流は弱化する可能性があります。本年の6月上旬の広域分布調査では麻痺性貝毒プランクトンAtが沖合にわずかに確認され（図2），沿岸定点でも7月上旬にはほとんど検出されていませんが，麻痺性毒性値の推移にはご注意ください。
●宗谷暖流の勢力については，適宜「オホーツク海宗谷暖流情報」として発信予定です。
●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。

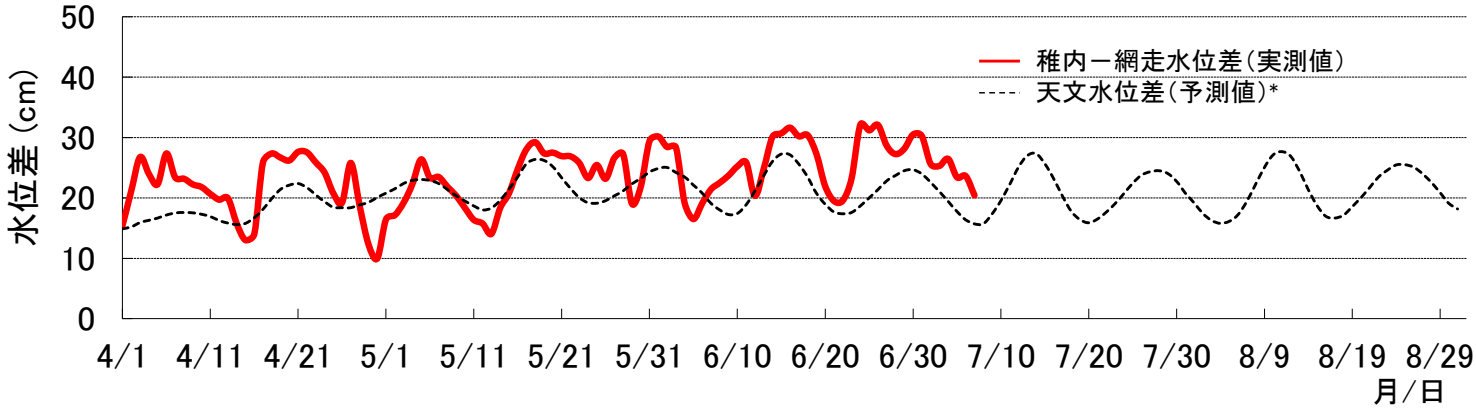


図1　R4(2022)年4/1-7/7の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*水位差の予測値は，潮汐表として公開されている天文水位差から算出することができます。
（実測値は気圧と風の影響を受けて変動します）

**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，
この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

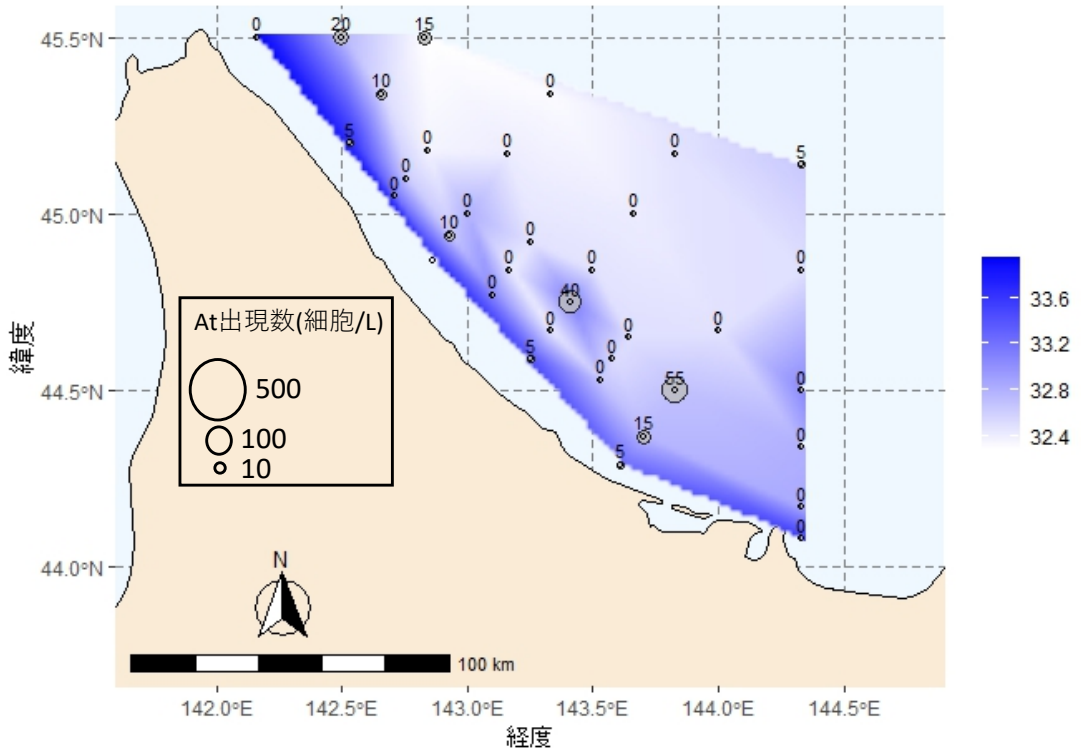


図2　R4(2022)年6/6-8の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試所属試験調査船北洋丸による調査結果

# オホーツク海貝毒プランクトン速報

（R4(2022)年6月下旬）

R4(2022)年6月30日

中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 宮園・有馬）

●6月下旬現在，宗谷暖流の勢力は例年並み～強めですが（図1），今後北寄りの風が続くと宗谷暖流は弱化する可能性があります。本年の6月上旬の広域分布調査では，麻痺性貝毒プランクトンAtが沖合にわずかに確認されましたが（図2），沿岸定点では1000細胞/lを超えたケースが観測されていますので，今後の麻痺性毒性値の推移にご注意ください。

●宗谷暖流の勢力については，適宜「オホーツク海宗谷暖流情報」として発信予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。

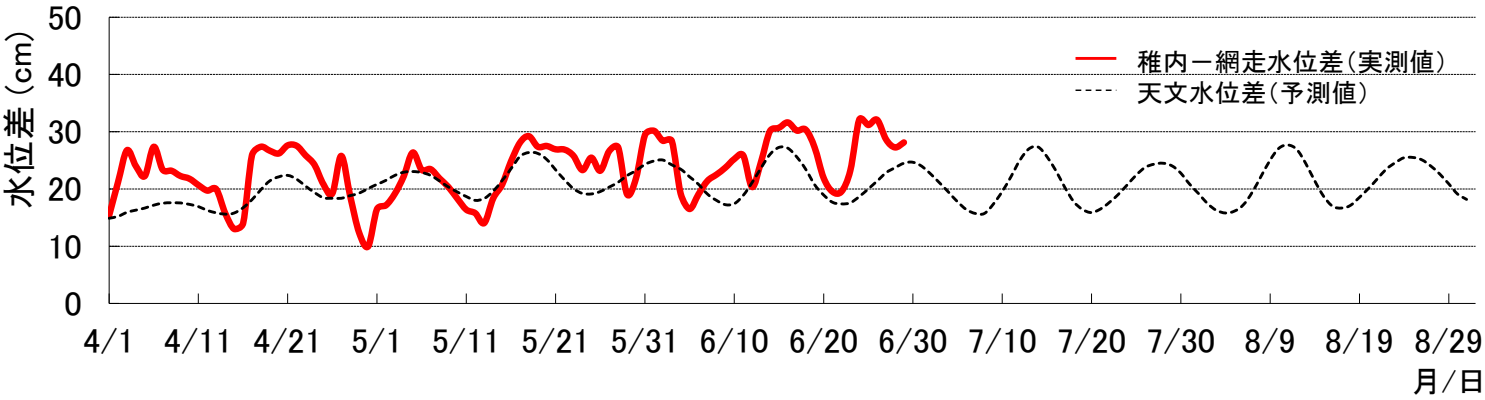


図1　R4(2022)年4/1-6/29の稚内と網走の水位差（宗谷暖流*の勢力）

*水位差の予測値は，潮汐表として公開されている天文水位差から算出することができます。
（実測値は気圧と風の影響を受けて変動します）

**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，
この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

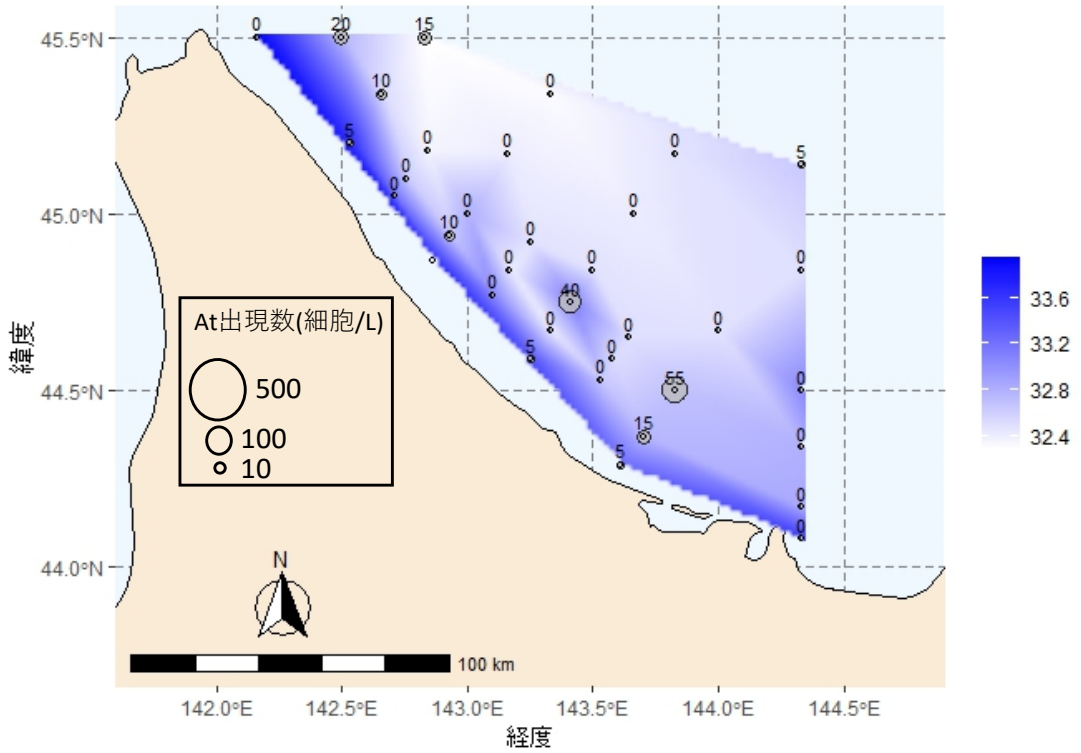


図2　R4(2022)年6/6-8の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試所属試験調査船北洋丸による調査結果

# オホーツク海貝毒プランクトン速報

（R4(2022)年6月上旬）

R4(2022)年6月17日

中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 宮園・有馬）

●6月6-8日にオホーツク海で行った麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ・スピーシーズ・コンプレックス（旧アレキサンドリウム・タマレンセ），略称「At」）の広域分布調査の結果を速報します。

●Atは，34定点中11定点で最高55(細胞/L)出現しています(図1)。最高密度は毒化の目安となる100細胞/Lを下回っていました。

●6月上旬現在，稚内から網走の方向に沿岸を流れる宗谷暖流の勢力は例年並みです(図2)。しかしながら，宗谷暖流の勢力が弱まれば，Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入して，麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。宗谷暖流の勢力については，「オホーツク海宗谷暖流情報」として適宜お知らせする予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。

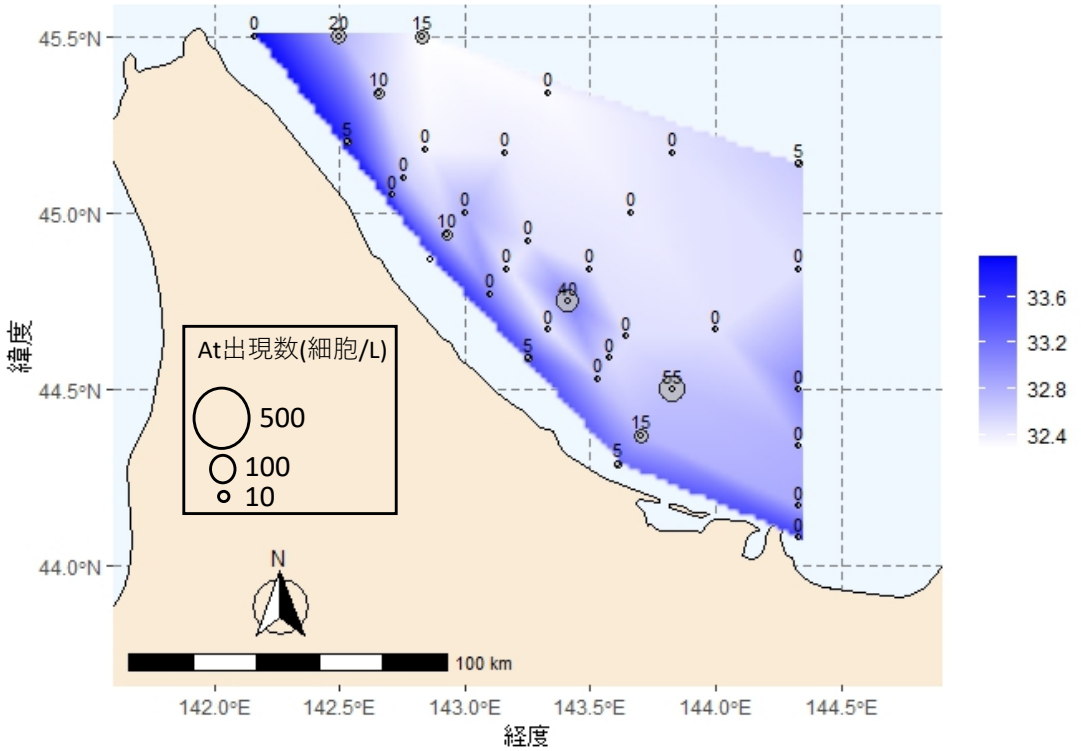


図1　R4(2022)年6/6-8の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試所属試験調査船北洋丸による調査結果

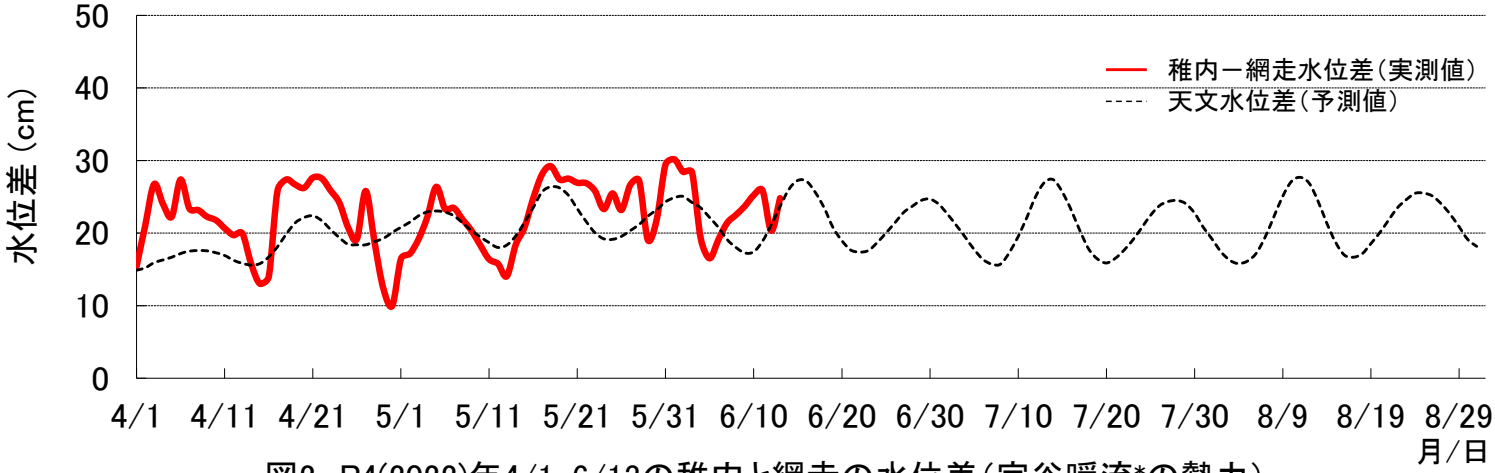


図2　R4(2022)年4/1-6/13の稚内と網走の水位差（宗谷暖流*の勢力）

*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，
この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。